

沼津工業高等専門学校研究報告

執筆の手引き

本研究報告に関しては、沼津高専規則集にその出版内規および投稿内規が指示されているが、この手引きでは原稿執筆、投稿についての諸心得を記す。

1 投稿資格

投稿原稿の著者（連名の場合は少なくとも1名）は沼津高専（以下本校という）の教職員であること。

2 著作権

本研究報告に掲載された記事についての著作権は本校に帰属する。ただし、これは原著者が論文を公表する権利を制限するものではない。

3 投稿原稿

学術研究・教育に関する論文であって、研究・教育上有益な事実あるいは結論を有し、原則として他誌に未発表のものとする。他誌で既に発表している図表、データ、結論等を用いる場合には、自己の研究成果であったとしても、引用や参考文献等の形で示し、著作権侵害とならないよう注意すること。

4 投稿原稿の取り扱い

原稿の採否は研究報告委員会が決定し、執筆代表者に通知する。

5 原稿の書き方

原稿は、本手引きの末尾に示す図1および図2に従って作成すること。ページ数は8ページ以内に納める。

同じ題目（タイトル）の論文を分割して同じ号に掲載することは禁止する。

5.1 論文タイトル等および著者

原稿の第1枚目に、次の事項を順に書く。上部中央に適宜改行して、

本文と同じ言語で、a) 表題 b) 著者名、本文が英語でない場合は英語で、c) Title d) Author、c) Title では各語頭（冠詞、4文字以下の前置詞・接続詞を除く）を大文字にする。

d) Author はフルネームをヘボン式ローマ字で書く。

b) 著者名と d) Author の右肩に脚注印*、*1、*2、

…を付ける。なお、d) Author は、YAMADA Taro のように姓名の順とし、姓をすべて大文字で書く。

これらの脚注として、本校教職員に対しては所属学科名（部署名）を、それ以外に対しては所属機関名等を、1ページ目左下部に罫線を引き区分して書く。使用言語は、上記 a) ~ d) 項と同様とする。

なお、本校の英語による学科名は以下の通りとする。
機械工学科：Department of Mechanical Engineering
電気電子工学科：Department of Electrical & Electronics Engineering

電子制御工学科：Department of Electronic Control System Engineering

制御情報工学科：Department of Control & Computer Engineering

物質工学科：Department of Chemistry & Biochemistry

教養科：Division of Liberal Arts

5.2 英文要旨

指定位置に200語以内の英文要旨を書く。はじめに太字で **Abstract:** と書いてから書き始める。ただし、人文系論文の場合は英文要旨を添付しなくてもよい。

5.3 キーワード (Key Words)

論文の内容を適確に示すとともに、迅速な分類・検索にも役立つことを旨とし、研究題目、英文要旨あるいは緒言の中から次の要領で選定する。

a) 一つのキーワードは3語以内を目安とし、5ワード以内とする。

b) できるだけ、狭義で、具体的意義をもつ語を選ぶ。

c) 名詞形を用い、最後の単語は単数形とする。

d) 元素名、核種名、化合物名、合金名等はフルスペルで示す。

e) 省略形は、その分野で広く通用するものに限る。

※7から移動

キーワードは以下の要領で書く。

英文要旨がある場合は、その後に1行あけて英文要旨の左端に合わせて **Key Words:** と書く。その後に2文字分空けて選定したキーワードを書く。各々は読点(,)で区切る。英語を原則とし、各語の最初の文字を大文字にする。

英文要旨がない場合の書き始めの位置は、末尾に示す図 1 を参照のこと。

5. 4 本文

本文の最初に緒言またははじめに (Introduction)、本文の末尾に結言またはおわりに (Summary) をつける。なお、それぞれに番号を付ける。大見出し同様に、ゴシック体とする。

その間の本文は、必要に応じて大、中および小見出しを使用して区分する。

5. 4. 1 見出し

大・中・小 3 段階までの見出しは別紙テンプレートに示すように書き、それ以上必要な場合には適宜統一した形式で書く。

大見出しは、用紙の 2 行を 1 行として行間に書く。大見出しはゴシック体とする。

本文は、改行して書き始める。

5. 4. 2 表、図(写真)および記号説明一覧

本文中でのこれらの引用は順番号によって行い、最初の引用箇所では順番号を付ける。

5. 4. 3 脚注

脚注が必要なときは、本文中の語の末尾に、†1、†2、… を付け、同じページの下部に罫線を引いて区分して書く。

5. 4. 4 単位と記号

単位系と記号は所属学協会の基準に従うこととするが、国際単位系 (SI) に従うのが望ましい。単位記号の書き方は、量記号につく場合は [] 内に、数値につく場合は何も付けないで書くことを原則とする。

例 $C [J \cdot (m o l / K)]$ 、180.0 MPa

5. 4. 5 文献の引用

文献を引用する語句には、その末端に [] 付きで全編通しの順番号を付ける。引用文献の記事は、すべてまとめて最後の章に書く。

5. 5 参考文献

はじめにゴシック体で、**参考文献**と書く。これには見出しにつける番号はふらない。その後、改行して書き始める。

本文中に付した引用番号順に、1 件ごとに改行して書き、それぞれに必要な事項を記載する。

○会誌の場合

[順番号] 著者名:「論文題名」, 雑誌名, 巻, 号, 発行年, 該当ページとする。

○書籍の場合

・書籍一冊を参考にした場合

[順番号] 著者名: 書籍名, 版表示, 出版社名, 出版年, 総ページ数を記載する。

・書籍の一部分を参考にした場合

[順番号] 著者名:「見出し・論文題名」, 書籍名, 版表示, 出版社名, 出版年, 該当ページを記載する。

○Web ページの場合

[順番号] 著者名: Web ページのタイトル, Web サイトの名称, 入手先 URL, 参照年月日を記載する。

○電子書籍の場合 (※紙媒体の文献が存在しない、或いは著しく入手困難な場合に限る)

[順番号] 著者名: 書籍名, 版表示, 出版社名, 出版年, 第 X 章, Y 項, Z 段落 (ebook-利用サービス名) を記載する。

例

参考文献

[1] 東正起, 金子浩二:「滑らかな曲線の評価基準」, 精密工学会誌, 55, 2, 1990, pp.25-29.

[2] 服部務他編:土壤微生物実験法, 培風館, 1995, 295p.

[3] 竹田青嗣:「近代哲学の新しい展開」, 自分を知るための哲学入門, 筑摩書房, 1990, pp.171-215.

[4] 国立高等専門学校機構:日本型高専教育制度の海外展開と国際化の一体的推進, 国立高等専門学校機構ホームページ, <https://www.kosen-k.go.jp/about/global/project/overview.html>, 参照日:2022-8-20.

[5] スティール, クロード (藤原朝子訳):ステレオタイプの科学, 英治出版, 2020, 第 1 章, セクション 2, 第 3 段落 (ebook-kindle).

6 表・図の書き方

6. 1 表 (Table)

罫線は必要最小限にとどめる。順番号は Table 1 または表 1 のどちらかに統一する。題名欄の配置は、表の上側で中央配置とする。

6. 2 図 (Figure)

図の順番号は Fig. 1 または図 1 のどちらかに統一する。題名欄の配置は、図の下側で中央配置とする。写真は図と同様に扱う。

6.3 記号説明一覧 (Nomenclature)

ローマ字、ギリシャ文字、上付き (superscript)、下付き (subscript) の順に、それぞれアルファベット順 (同一文字は大文字、小文字の順) に書く。単位記号は [] で囲んで明記する。量記号の書き方は所属学協会の基準に従う。

7 その他

内容が他誌に発表されたものの解説もしくは論評の場合、その旨を本文末尾に書く。

別刷りは希望者のみに作成する。

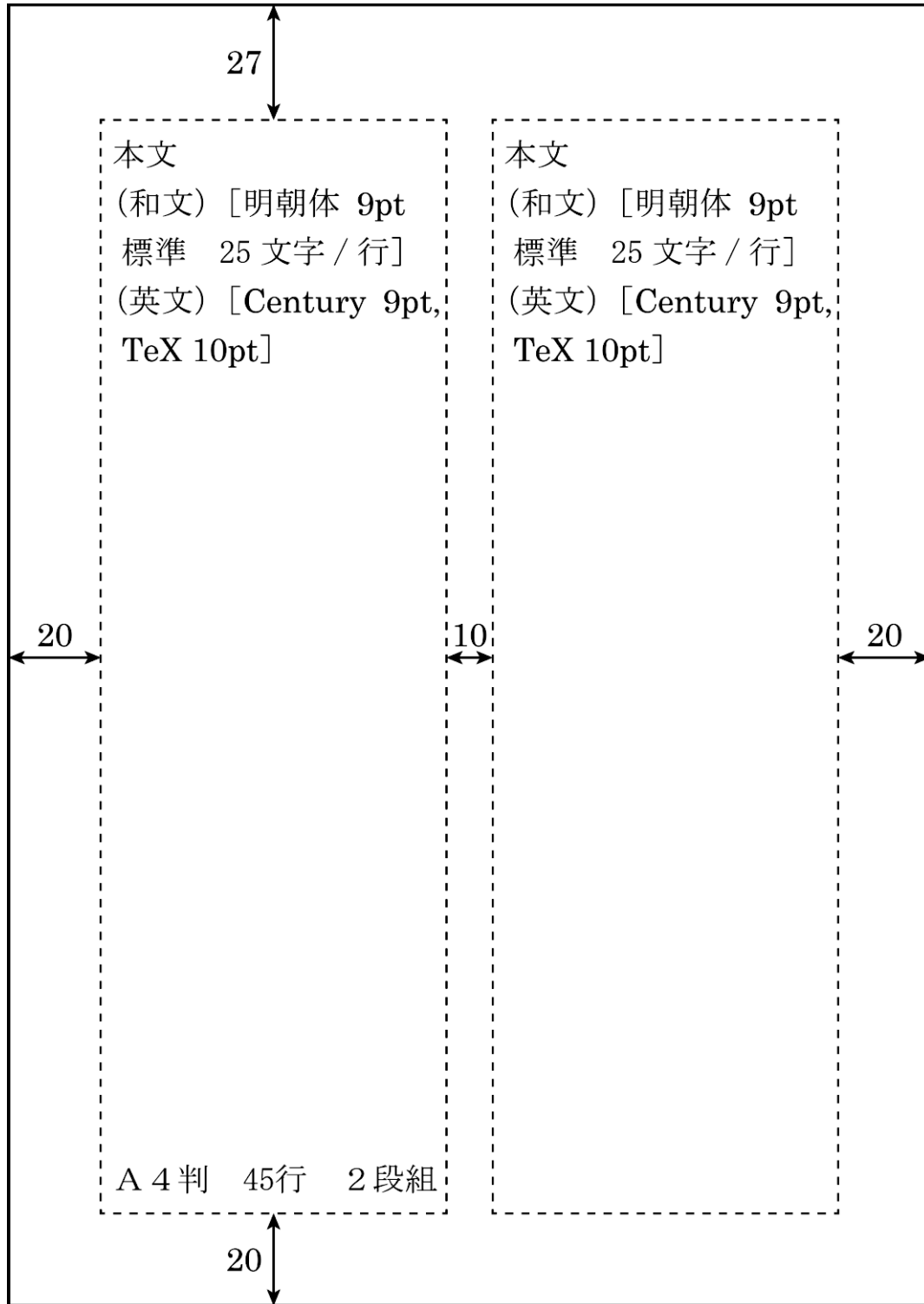


図2 2ページ目以降の体裁